

第3回すくわくプログラム【ストーリーブック】



10:00説明 4月に行った時と同じ作り方で作るということで、手順を再確認しました！今回は好きな柄の台紙や色を3色選べることに喜んでいました。「色が動物に重なっていいの？」と質問する姿もありました。



10:10製作開始 好きな色から順に台紙に一滴垂らし、無水エタノールで色を広げました。色が混ざり合う様子を見ると「緑になった！」「すごいきれい！」「もう一回垂らしてみよう！」と楽しむ姿がありました。



次は何色にしようか、どこに色を垂らそうかを考えながらアートを楽しんでいました。



広げた色の上に、筆でエタノールを飛ばして模様をつけました。前回と同じやり方を覚えている様子で、好きな場所にはじいていました。



できた作品を見て、どんなストーリーにしようかを考えました。「猫が散歩している」「うみ」「恐竜博物館」などとストーリーをふくらませていました。



10:40完成 お友だちの完成した作品を見て「かわいいね！」「ここが綺麗だね！」「僕がこの間使った色使ってる！」と発見したり褒め合ったりする姿がありました！



10:50説明 講師の先生の話をよく聞き、道具の使い方を復唱したり、聞かれる前に「上向けて蓋開けるんだよね！」と話したりしていました。



今回選べるインクは3色！「どれがいいかな？」「この色混ぜたら絶対可愛いよね」と話しながら選んでいました。



11:00製作開始 台紙にインクを垂らして、ブロアーで風を送って色を混ぜたり、広げたりしていました。



「こっちは紫でこっちは緑になった！」「赤と青を混ぜたら紫になるんだよね」と色の変化について考えながら色を混ぜていました。



色をもっと広げたい場所や混ぜたい場所に無水エタノールを垂らしてブロアーで空気を送り、満足できるまで行う姿が見られました。



作ったアートを見てストーリーを考えました。「遊んでるのかも」「水族館みたい」「海じゃない？」など、色やイラストから想像を広げていました。



11:40完成 完成したものをお友だちと見せ合い、ストーリーを読み上げ、「すごい、遊んでるように見えるね」「お散歩楽しいから行きたいんだね」と褒めたり話したりしていました。

好きな模様の台紙を1枚とコピックインク3色を選びました。台紙の好きな場所にコピックインクを1滴、無水エタノールを5滴を垂らし、ブロアーで空気を送りながら色を広げました。色を広げた後は、小筆に無水エタノールをつけて、スパッタリングで色をにじませて、模様を付けました。完成した作品を見ながら思い思いにストーリーを想像し、タイトルを考えました。最後に名前と日付も書き、周りにお絵かきをして作品を完成です！

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



施設番号	
施設名	アンジェリカ保育園品川園
施設所在地	港区港南1-3-13品川フロントビルキッズ館 2F
法人名	株式会社WITH

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『色』 自己肯定感を高めるアート活動

<テーマの設定理由>

5歳クラスで体験してきたふれあいアートなどに興味関心を示していたことやプレイフルキットでの遊びを楽しむ様子から、絵画や造形活動などを保育に取り入れたいと考えていた。認証園で幼児クラスとして3歳～5歳が合同で過ごす中で、アート活動や様々な素材に触れ自由に創作する時間をより多くすることで、集中できる活動や時間を持ち一人ひとりの持つ力をより引きだしたいと考えた為。運動やリズム活動など以外にも、自分の好きな事を見つけて楽しむことが自信につながるよう、活動の過程を楽しめるような関りをしていきたい。

2. 活動スケジュール

別紙に記載

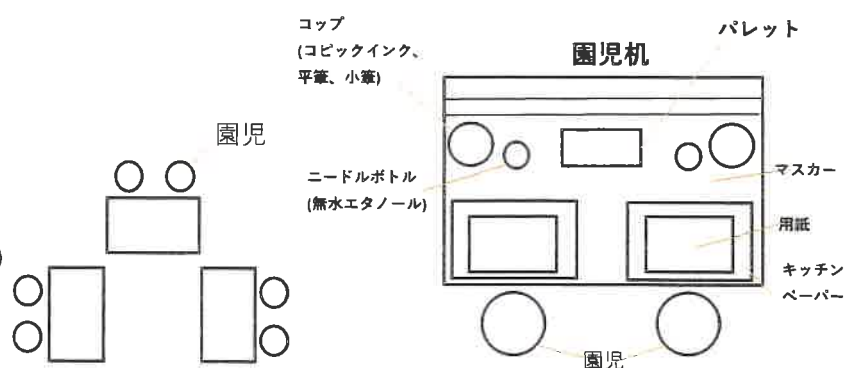
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ マスカー
- ・ 用紙
- ・ キッチンペーパー

- ・ コピックインク
- ・ 無水エタノール
- ・ ニードルボトル(12個)
- ・ コップ(8個)
- ・ 台紙(12個)
- ・ 平筆、小筆(12個ずつ)

- ・ 水性ペン
- ・ パレット(3個)



4. 探究活動の実践

<活動内容・活動の様子の写真>

別紙に記載

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

別紙に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

第一回、第二回と行ってきたインクアートに親しみを持ち、道具の使い方や約束を覚えて話していたり、前回使った色はこの色になったから、次は別の色を混ぜてみようと話したりと、イメージを膨らませながら試行錯誤する姿が増え、試すこと自体を楽しむ姿が見られた。子どもが安心して試行錯誤できるよう、保育者が結果ではなく過程を認める関わりを行うことで、自分らしい表現につながっていくことを改めて感じた。

台紙の模様を先に選んだあとに三色の色を一つずつ選ぶことで「恐竜には何色がいいかな?」と模様に合う色を考えたり「私はこの色が好きだからこれにするね」と自分の好きな色を見つけたりと、友だちと話し、考えを認め合いながらも、自分の表現を探してのびのびと楽しむ姿が見られた。また、完成した作品を見て、「海に見える」「恐竜博物館だよ」「お散歩行きたいのかな?」「遊んでみたい」とイメージを膨らませ、作品のストーリーを考えていく姿も見られた。今後も、子ども一人ひとりが自分なりのイメージを大切にしながら表現を楽しめるよう、子どもの思いに寄り添った言葉かけを行うことで、主体的な表現活動に繋がっていきたい。

【すくわくプログラムを終えて】

七夕会の準備で、染め紙やスパッタリングに挑戦した。

すくわくプログラムで経験した色の変化や色の動きの楽しさを元に、

何色と何色を混ぜたら何色になるのかを楽しみながら製作することができた。

《染め紙》



《スパッタリング》

